

2 研究の実際

(1) 特別活動と道徳科の関連

ア 特別活動と道徳教育の目標

特別活動の目標については、小学校学習指導要領第6章の第1において、次のように示されています。

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。

文部科学省 『小学校学習指導要領』 平成27年3月 p.105より引用

※下線は引用者による

また、道徳教育の目標は、小学校学習指導要領一部改訂（平成27年3月）において、次のように示されています。

〔前略〕道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

文部科学省『小学校学習指導要領』 平成27年3月 p.1より引用

※下線は引用者による

これを受け、第3章特別の教科道徳の第1には、道徳科の目標が次のように示されています。

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解をもとに、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

文部科学省『小学校学習指導要領』 平成27年3月 p.92より引用

※下線は引用者による

これらには、特別活動と道徳教育、道徳科のそれぞれの目標達成のために、自己の生き方についての考えを深める学習過程を経ることが示されています。特別活動の目標については、道徳的実践の指導の充実を図る観点から見直しが図られ、平成20年度改訂の学習指導要領より特別活動の目標に「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」の文言が加えられました。ここに、特別活動で行われる実践活動や体験活動と、道徳教育の要としての道徳科の指導とを効果的に関連させることが求められていることがうかがえます。

イ 特別活動と道徳科の関わり

国立教育政策研究所教育課程研究センターが作成した『特別活動指導資料 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編』には、下記のように記されています。⁽¹⁾

特別活動では、様々な集団活動・体験活動において、児童に多様な道徳性を育んでいます。こうした道徳性は、道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えが深まるように意図した指導によって育てられます。特別活動で道徳教育を適切に行うためには、まず、各活動や学校行事の目標に含まれる道徳的価値を意識して指導することが大切です。

国立教育政策研究所教育課程研究センター 『特別活動指導資料 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編』
平成26年7月 p.24より引用

※下線は引用者による

特別活動において、相手の意見を尊重したり思いやりして折り合いを付けていく話し合い活動や、自分の役割に責任をもち、協力し合って活動していく実践活動、人間関係や集団との関わり方について実行する活動には、多くの道徳的価値が含まれており、実践を通して学ぶ貴重な場となっています。しかし、それらの活動の場において、道徳的価値を意図した指導を行わなければ、活動の中に含まれている道徳的価値に気付くことができず、効果的に道徳性を育むことはできません。

また、道徳の教科化の議論の中で出された中央教育審議会答申において、以下の内容が示されました。⁽²⁾

(前略) 道徳的実践の中心的な学習活動の場として位置づけられる特別活動をはじめ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育においては、各教科等の特質に応じ、その関連の中で道徳的諸価値について扱うというアプローチの違いはあるものの、いずれも最終的には、児童生徒の主体的な道徳的実践につながることを目指して、道徳に係る内面的な資質・能力である道徳性を育成するという意味において共通するものである。

中央教育審議会 『道徳に係る教育課程の改善等について(答申)』 平成26年10月 p.7より引用

※下線は引用者による

道徳的実践の中心的な学習の場として、特別活動は位置付けられています。特別活動には、「望ましい集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築くとともに、公共の精神を養い、社会性の育成を図る」⁽³⁾という特質があり、この特質との関連において道徳的諸価値を取り扱うこととなります。児童が自ら自己実現を図る活動を通して、道徳的諸価値の大切さに気付き、様々な場面において繰り返し道徳的実践を行うことで、道徳性は育まれていきます。道徳科において道徳的諸価値のより深い自覚があればあるほど、特別活動における学習の場で道徳的実践が引き出されやすくなります。また、具体的な道徳的実践があればあるほど、道徳科において実感を伴った道徳的諸価値の自覚を促しやすくなります。

ウ カリキュラム・マネジメントの重要性

平成28年8月に「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」が報告されました。そこに、「資質・能力の育成を目指した教育課程編成と教科等間のつながり」として下記の内容が記されています。⁽⁴⁾

- こうした組織体制のもと、これからの時代に求められる資質・能力を育むためには、各教科等の学習とともに、教科横断的な視点に立った学習が重要であり、各教科等における学習の充実のもとより、教科等間のつながりを捉えた学習を進める必要がある。そのため、教科等の内容について、「カリキュラム・マネジメント」を通じて相互の関連付けや横断を図り、必要な教育内容を組織的に配列し、各教科等の内容と教育課程全体とを往還させるとともに、人材や予算、時間、情報、教育内容といった必要な資源を再配分することが求められる。
- 特に、特別活動や総合的な学習の時間においては、各学校の教育課程の特色に応じた学習内容を検討していく必要があることから、「カリキュラム・マネジメント」を通じて、子供たちにどのような資質・能力を育むかを明確にし、それを育む上で効果的な学習内容や活動を組み立て、各教科等における学びと関連付けていくことが不可欠である。

中央教育審議会 『次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ(第1部)』 平成28年8月 p.22 より引用

※下線は引用者による

「特に、特別活動」と明記されていることから、特別活動には、他教科等との関連付けをより求められていることが分かります。また、児童にどのような力を付けたいのかを明らかにした上で、カリキュラムを編成していく必要があり、教科等間の内容を往還させる仕組みが求められていることが分かります。さらに、相互の関連を明らかにした学習過程全体の計画や横断を図るための共通した手立てが必要となり、その手立てを取ることで相互の関連を図る有効性が高まると考えます。

引用文献

- (1) 国立教育政策研究所教育課程研究センター
『特別活動指導資料 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編』
平成26年7月 p.24
- (2) 中央教育審議会 『道徳に係る教育課程の改善等について(答申)』平成26年10月 p.7
- (3) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』平成20年8月 p.3
- (4) 中央教育審議会 『次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ(第1部)』 平成28年8月
p.22